

第4節 亀山構内の立会調査

教育学部附属山口小学校電柱移設に伴う立会調査

調査地区 教育学部附属山口小学校構内

調査期間 昭和61年7月9日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約0.5㎡

調査結果 工事は、小学校の南端ぞいを東西に走る市道に存在する電柱を撤去し、同構内へ新規に埋設するもので、埋設箇所は2地点である。

グラウンドの南ぞいの敷地境界線付近は、帯状に一段高くなっており、グラウンド面との比高差は1m近くになる。A地点はその一段高い部分に位置し、現地表から約1.3mまでは構内造成時の埋め土で、その下位には厚さ約20cmの旧耕作土が残存していた。その下には黄褐色粘質土の地山が厚さ約1.5mにわたって堆積しており、青灰色粘土へと続く。

A地点の東約25mに位置するグラウンドの南端中央部では、旧耕作土直下に黄褐色粘質土の遺構面が存在し、^{かまど}竈を付設した5世紀前半頃の¹⁾堅穴住居跡が検出されているが、床面までの深さは約20cmと浅く、後世の削平が考えられた。また、検出面はグラウンド上面から約70cm下位であり、A地点の現地表から換算すれば約1.7m下位になる。しかし、A地点では、上述のとおり地表面から約1.5mで地山が検出されたことから、グラウンド南端の一段高い部分では削平がより少ないものと思われ、より良好な状態で遺構が検出される可能性がある。

なお、グラウンドに比べ約2m高くなっているB地点では、現地表から2.3mまで構内造成時の埋め土であったが、湧水が激しく、それ以下の堆積層は観察できなかった。

(河村)

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属山口小学校・幼稚園構内の試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985年)。

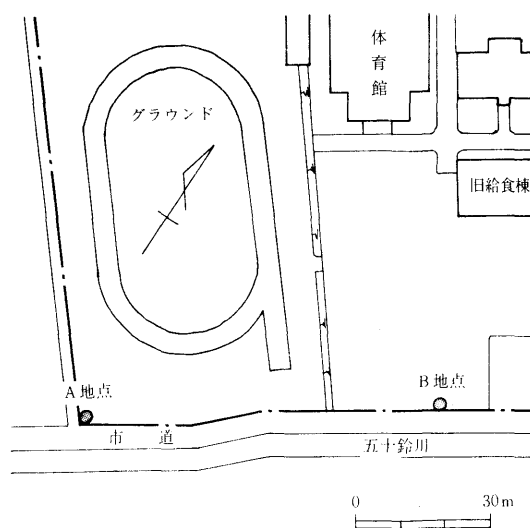


Fig. 55 調査区位置図